鏽釉唐花彫紋花瓶　大正 11 年

葆光青磁唐花彫紋花瓶　大正 8 年頃

彩磁金魚文花瓶　明治 43 年

偉人の横顔

陶芸家として初の文化勲章受章者である板谷波山。
ふるさとをこよなく愛し、ふるさとの人々に愛される波山の人物像を紐解きます。

陶聖・板谷波山

日本の陶芸を芸術の域にまで高めた近代陶芸の祖として、輝かしい功績を残した板谷波山。

東洋の伝統技法に加え、当時のヨーロッパの最新デザインであるアール・ヌーヴォーや窯業技術を積極的に取り入れるなど、作陶に妥協を許さず、理想を追求し続けました。没後54年経った今なお、陶聖として敬われています。

生い立ち

板谷波山（本名・嘉七）は明治5年、真壁郡下館町（現・筑西市）に、醤油醸造や雑貨を扱う商家である板谷家の三男六女の末子として生まれました。明治22年、東京美術学校（現・東京芸術大学）彫刻科に入学し、岡倉天心や高村光雲らに学び、卒業後は石川県工業学校（現・石川県立工業高等学校）の彫刻科主任教諭に就任しました。その後、陶磁科を担当するようになり、本格的に陶芸の研究を始めます。

明治36年職を辞して、39年に東京・田端に自分の窯をつくり、陶芸家としての人生をスタートさせました。

数々の功績

その後波山は、明治40年に東京勧業博覧会で受賞した三等賞を皮切りに、諸展覧会で受賞を重ねました。明治44年には、妻のまるとともに『彩磁菊花図額皿』（しもだて美術館蔵）を御前制作するという栄誉にあずかります。

こうして陶芸家として広く名が知られるようになった波山は、工芸家として初の帝国美術会員、陶芸家として初の文化勲章受章など、数々の功績を残しました。

国の重要文化財である『葆光彩磁珍果文花瓶』をはじめとした作品たちは、今日も見る人の胸を打ちます。

ー神林正雄・節子御夫妻コレクションの一部をご紹介ー

彩磁椿文茶碗　昭和 38 年

天目茶盌（黄金）　昭和 19 年頃

彩磁蝶貝名刺皿　大正前期

ふるさと愛

波山は、下館町に住む高齢者や戦没者遺族へ鳩杖や香炉、観音像を贈ったほか、晩年には、郷里の若者の勉学のため私財を投じるなど、故郷への愛情を持ち続けました。このお金を基金として、「板谷波山奨学金」が創設されました。

鳩杖

昭和8年から下館町に住む80歳以上の高齢者へ贈られた鳩杖は、波山が数え80歳になるまで19年間、戦後の混乱時代も途切れることなく続けられました。その数は約２６０本にもおよびます。

鳩杖

香炉・観音像

香炉は、昭和12年に勃発した日中戦争の際、郷里の戦没者遺族に贈られました。その後戦局が悪化し、遺族の増加により香炉から土型による観音像の制作へと変わりましたが、これらも、終戦から11年を経た昭和31年までに、すべての遺族に贈られました。その戸数は、合わせて２７０戸余りです。

香炉

人間・板谷波山

芸術家として常に自らの理想を追い求め続けた波山は、終生質素な暮らしを送ったといいます。そうした中でも常に故郷〝下館〟へ心を砕いた波山は、陶芸家としての功績だけでなく、その人柄から、今日も故郷の人々に愛され続けています。

観音像

波山の作品を見に行こう！

板谷波山記念館

県指定史跡である波山の生家や、東京・田端の工房から移築した三方焚口倒焔式丸窯、展示館などがあり、板谷波山の足跡を辿ることができます。

午前 10 時～午後６時（月曜休館）
甲８６６－１　☎２５－３８３０

しもだて美術館

筑西市出身の陶芸家・板谷波山、洋画家・森田茂の２人の文化勲章受章者をはじめ、郷土にゆかりのある作家の作品を所蔵・展示するほか、多彩な企画展を開催しています。

午前 10 時～午後６時（月曜休館）
丙３７２　☎２３－１６０１

ITAYA